

# 18. 神奈川県箱根町

# 1. 地域概要

対象地域	神奈川県箱根町			
申請主体	箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会）			
計画名	箱根エリアにおける地域一体となった持続可能な観光地域づくり推進事業			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	18,960	19,510	17,590
	- 国内	16,460	16,567	14,054
	- 訪日外国人旅行者	2,500	2,942	2,825
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京から最短75分でアクセスすることができるリゾート温泉地であり、年間観光客数は約2,000万人。うち訪日外国人旅行者は約200万人</li> <li>大涌谷噴煙地、芦ノ湖などの豊かな自然や17の異なる泉質を持つ温泉場、箱根寄木細工、多様な観光施設や宿泊施設、周遊利便性の高い域内交通網、歴史史跡（日本遺産「箱根八里」）等</li> </ul>			
協議体制	<b>協議の場</b>			
	箱根町観光交通総合対策協議会			
	<b>参加者</b>			
	<b>行政機関</b>	<b>事業者</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土交通省関東運輸局</li> <li>箱根町企画観光部観光課</li> <li>国土交通省観光地方整備局</li> <li>神奈川県</li> <li>神奈川県警察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>箱根DMO</li> <li>株式会社小田急箱根</li> <li>箱根登山バス株式会社</li> <li>伊豆箱根バス株式会社</li> <li>（一社）神奈川県タクシー協会</li> </ul>		
	<b>住民関係者</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>箱根吟遊 専務取締役</li> <li>太田明宏（箱根町宮ノ下在住）</li> </ul>			

## エリアマップ




「かながわの景勝50選」に選ばれている仙石原すずき草原



白い噴煙と硫黄の匂いが立ちのぼる箱根を代表する景勝地大涌谷



明治期には外国人避暑地として発展した歴史ある温泉街 宮ノ下





箱根観光の代表的なフォトスポット 箱根神社の「平和の鳥居」



箱根の玄関口「箱根湯本駅」 商店街では食べ歩きを楽しむ

## 2. 課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 時期・曜日の集中	<ul style="list-style-type: none"> <li>年末年始やGWなどの大型連休や土日祝日に混雑が集中し、公共交通機関や観光スポットの混雑や道路渋滞が発生している</li> <li>上記の混雑により、観光客の満足度が下がるとともに、地域住民が公共交通機関に乗れないなどの問題が発生している</li> </ul>	観光客・地域住民
2. 特定の時間への集中	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客の行動が画一的であり、観光スポットにおいて、一日のうちで特定の時間帯に観光客が集中し、観光スポットの混雑や特定の道路の渋滞が発生している</li> </ul>	観光客・地域住民
3. 観光資源への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路渋滞による長時間のアイドリングによりほぼ全体が富士箱根伊豆国立公園に含まれている箱根の生態系への影響も懸念される</li> </ul>	住民・観光資源

## 1 時期・曜日の集中

## 2 特定の時間への集中



早雲山駅における大涌谷行きロープウェイの混雑

## 1 時期・曜日の集中

## 2 特定の時間への集中



箱根湯本駅前タクシー待ち列

## 3 観光資源への影響



年始の道路渋滞

### 3. 背景・要因

#### 主な背景・要因

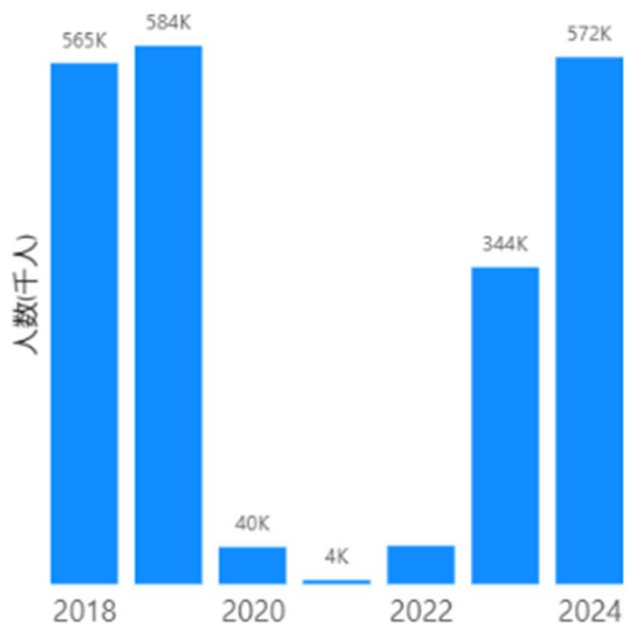
#### 1. 訪日外国人旅行者の急増

- ・ コロナ禍を経て令和5年頃より訪日外国人旅行者需要が急速に回復
- ・ 特に4月、5月及び10月は、長期休暇期間にあたるため訪日外国人旅行者の来訪増加が見込まれることに加えて、国内の大型連休と重複することにより、公共交通機関及び観光施設における混雑が一層顕在化

#### 2. 季節的偏在

- ・ 箱根では四季折々の自然をやレジャー楽しめることから、紅葉シーズンや夏休みシーズン、また学生の春休みシーズンに旅客が集中し、公共交通機関のキャパシティオーバーや深刻な道路渋滞が発生
- ・ 一方で1月後半から2月、梅雨の時期6月頃は比較的キャパシティに余裕があり、時期の偏差が顕著

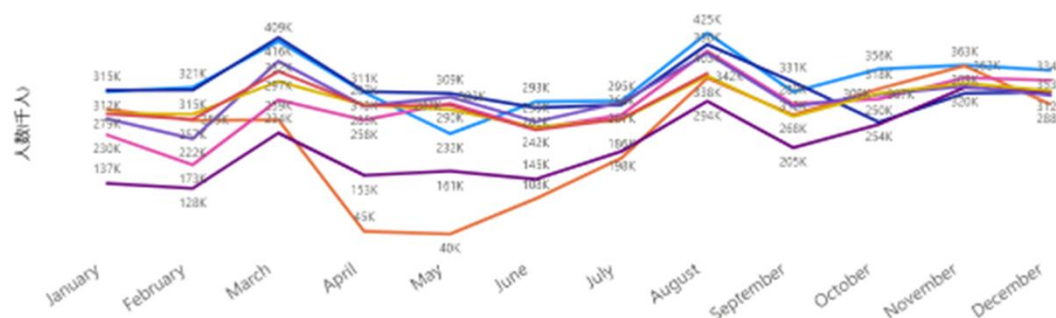
宿泊者数の推移 訪日インバウンド



訪日外国人旅行者 宿泊数の推移。  
令和6年には平成31年水準まで回復している

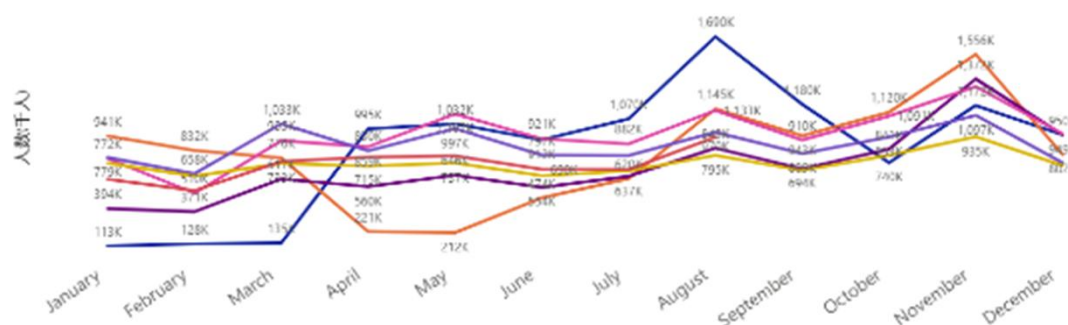
宿泊者数の推移 国内

年 ● 2018 ● 2019 ● 2020 ● 2021 ● 2022 ● 2023 ● 2024 ● 2025



日帰り客数の推移

年 ● 2019 ● 2020 ● 2021 ● 2022 ● 2023 ● 2024 ● 2025



宿泊と日帰りの月間推移。3月、8月、11月に集中する傾向がある

## 4. 対策の概要

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客が時間・場所ともに分散して行動でき、公共交通機関や観光施設の過度な混雑が解消される</li> <li>渋滞の緩和によりアイドリング時間が短縮される</li> </ul>
KGI	<p>(指標) 箱根の旅行で改善を求める点「道路渋滞」の項目</p> <p>目標値：宿泊27%／日帰り32%（令和6年度） 実績値：宿泊25%／日帰り30%（令和9年度）</p>

- 地域資源を活かした多様なルート・時間帯・アクティビティを楽しめるような環境を整備し、多様な観光体験の創出を図る

## ■ 補助事業の実施概要

## 受入環境の整備・増強

## ① 手ぶら観光の推進事業

- 観光客が大きな手荷物を公共交通機関に持ち込むことで遅延や乗車率の低下が発生している
- 箱根エリアにおける手ぶら観光のLPの作成および箱根エリア内で交通広告掲出

## ② 路線バスへのタッチ決済導入

- 路線バスの降車時において支払いに時間がかかり、バスの定時運行の妨げになっている
- 運賃箱にタッチ決済機器を導入

## ③ 箱根エリア内路線バスへのタッチ決済およびQR認証端末導入

- 路線バスの降車時において支払いに時間がかかり、バスの定時運行の妨げになっている
- 運賃箱にタッチ決済機器およびQRデジタルチケット読取機器を導入

## ④ 閑散地域の魅力理解促進による周遊箇所分散のための観光関連事業者向け研修事業

- 旅客の行動が画一的になっており、特定の時期・スポットの混雑が生じている
- ホテルコンシェルジュや観光案内所スタッフ等を対象に閑散地域の魅力を学ぶバスツアー型研修を実施

## 需要の適切な管理

## ⑤ 「大涌谷パーク&amp;ライド」プロモーション

- 人気スポット「大涌谷」周辺は新規施設がオープンしたこともあり、駐車場待ちの道路渋滞が深刻
- 既存の「大涌谷パーク&ライド」の概要を見直したうえで、ウェブ広告、利用訴求看板を設置

## ⑥ 大涌谷三叉路誘導員配置の実施

- 人気スポット「大涌谷」周辺は新規施設がオープンしたこともあり、駐車場待ちの道路渋滞が深刻
- 11月の紅葉シーズンの土日に渋滞の起点となる三叉路に誘導員を配置する



## 需要の分散・平準化

## ⑦ インバウンド向け閑散期来訪のための旅マエ情報発信

- 観光客の行動が画一的になっており、特定の時期・スポットの混雑が生じている
- 閑散期や閑散スポットのコンテンツをWEBメディアで発信。それに関するLPの作成を実施

## ⑧ OTAを活用した閑散期宿泊の促進

- 特定の時期や曜日に宿泊需要が集中し、観光地や宿泊施設の混雑が発生している
- 大手OTA(じゃらん・楽天)と協業し、地域一体で共通ワードを使ったプラン作成およびWEB広告を実施

## ⑨ 「箱根観光デジタルマップ」活用促進プロモーション

- 箱根エリア内での観光客の動きが画一的であり、特定の時間に混雑が生じている
- 「箱根観光デジタルマップ」の機能拡充および旅ナカでのプロモーションを実施

## ⑩ 「はこねカーシェア」ステーション拡大

- 箱根湯本駅周辺では、上下とも激しい道路渋滞が発生している
- レール&カーシェアを推進すべく、「はこねカーシェア」のステーション拡大を実施

## ⑪ 元箱根周辺渋滞解消のためのパーク&amp;シップの推奨

- 年始になると元箱根周辺で激しい道路渋滞が発生している
- 「パーク&シップ」利用促進に関しての看板を設置、旅マエではリビング広告で情報発信を実施

## ⑫ SNSを活用した観光スポット分散プロモーション事業

- 観光客の行動が画一的になっており、特定の時期・スポットの混雑が生じている
- まだ知られていないスポット「Hidden gems(隠れた名所や名店)」のSNSキャンペーンを実施

## マナー違反行為の防止・抑制啓発

## ⑬ インバウンド向け「HAKONE Bus Information」パンフレットの増刷

- 箱根のバス路線は複雑で、バス運転手への問い合わせが運行遅延や渋滞を招いている
- 路線図や乗り降りの仕方をまとめた「HAKONE Bus Information」パンフレットの増刷を実施



## 5-①. 主な取組（詳細）

## 受入環境の整備・増強

補助事業①	手ぶら観光の推進事業		
事業目的	観光客のスーツケース等の大きな手荷物を配送するサービスをエリア全体に普及することでスムーズな周遊を促進する		
実施主体	箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会）	実施期間	令和7年11月～令和8年2月

## 【背景・課題】

- 観光客が手荷物を携行したまま公共交通機関を利用することによって生じている、乗降時間の増加や車内スペースの圧迫、ならびに乗車効率の低下といった課題の解消を目的とする
- 箱根エリアにおいて既に提供されている手ぶら観光関連サービスについて、分散している情報を整理・集約し、旅行者に対して正確かつ分かりやすい情報提供を行うことで、手ぶら観光の利用促進を推進する

## 【事業内容】

- 箱根エリアにおける手ぶら観光関連サービス（手荷物配送、預かり等）に関する情報を一元的に集約・発信するウェブサイトを構築する
- 旅行者が旅ナカにおいて必要な情報へ円滑にアクセスできるよう、観光動線上における交通広告を活用し、ウェブサイトへの効果的な誘導を行うことで、認知向上および利用促進を図る

## 【推進ポイント】

- 町内事業者を巻き込んだ事業とするため、宿泊施設等へのポスター掲出や口頭でのご案内協力を依頼する



手荷物を持った観光客の様子

## 5-①. 成果及び今後に向けて

## 補助事業①

## 手ぶら観光の推進事業

## 令和7年度事業の目標 (KPI)

## 指標名

①特設サイトPV数 ②OOH（交通）広告からの流入数

## 令和7年度に掲げた目標値

- ①14,500pv
- ②1,300pv

## 事業の成果/目標の検証結果

- ①3,928pv
- ②9pv（令和7年11月～令和8年2月）

## 成果の詳細

## ・情報集約・認知の成果

⇒分散していた手ぶら観光関連情報を一元化し、箱根DMOのオウンドメディア「箱根全山」に動線を作ることで、旅行者が必要な情報にアクセスしやすくなった。また、旅行者にマッチした手ぶら観光の診断をランディングページ内に設置することで、比較・検討しやすい環境を整備できた

## ・行動変容・混雑緩和の促進

⇒サイト閲覧やQRコード流入を通じ、手ぶら観光サービスへの関心喚起が確認された

## 令和7年度事業を踏まえた継続課題

## 手荷物受入キャパシティの拡大

- ・ 繁忙期になると、引き続きハード的な面でキャパシティオーバーになるため、特に箱根の玄関口である箱根湯本周辺の手荷物受入キャパシティの拡大が必要である
- ・ KPIについては、箱根DMOのオウンドメディアである「HAKONE JAPAN」の通常PV数から推計したものの、①については公開が遅れたこと、②については当初予定していたバス車内ポスターへのQRコード掲載ができなかったことが要因で未達となっている

## 令和8年度以降の方針

## 配送キャパシティの増強

- ・ 手荷物預かり・配送のキャパシティ増強、既存プラットフォームとの連携によるワンストップの認知拡大、タクシー業者およびタクシー配車アプリと協業した手荷物配送サービスの検討、を推進する

## 5-②. 主な取組（詳細）

## 受入環境の整備・増強

補助事業②・③	箱根エリア内路線バスへのタッチ決済およびQR認証端末導入		
事業目的	路線バスにおいて降車精算時間を短縮し、地域課題である道路渋滞の緩和を図る		
実施主体	伊豆箱根バス／箱根登山バス	実施期間	令和7年8月～令和8年1月
<p><b>【背景・課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>箱根エリアの路線バス車内において、特に訪日外国人旅行者に関しては現金精算の場合、降車に時間がかかることでバスの定時性が損なわれている</li> <li>精算・降車に時間がかかることで、路線バスがバス停に長時間滞留し追い越し車両の渋滞が発生している</li> <li>小田急グループ傘下の箱根登山バスにおいては、年間約100万枚発売される企画周遊券「箱根フリーパス」のデジタル版に付随するQRコード認証に対応していない</li> </ul> <p><b>【事業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の旅客が利用する観光地箱根の路線バスの降車精算において、国際ブランド（VISA、Mastercard、JCB、American Express、Diners Club、Discover、銀聯）のクレジットカードタッチ決済を導入することで降車精算時間の短縮を図る</li> <li>箱根登山バスにおいてはQRコードが掲載されている「箱根フリーパス」デジタル版の利用拡大へ対応するべく、QRコード認証機器の開発導入も同時に行う</li> </ul> <p><b>【推進ポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小田急グループでは、タッチ決済サービス拡大について大々的にリリースを発出し周知を図っているほか、『インバウンド向け「HOKONE Bus Information」パンフレットの増刷』事業においてもバスの乗降方法にタッチ決済での乗車方法を新たに追加し、利用促進を図る</li> <li>クレジットカードの決済可能ブランドは7社で、多様な利用者のニーズに対応しており国内外からの来訪者がスムーズに支払いを行える環境を整えている</li> <li>導入後は、バス事業者より利用データの提供を受け、現金精算率の低減に向けた次なる施策の検討を進める</li> </ul> <p><b>【事業実施状況】</b></p> <p>伊豆箱根バスの端末運用開始日：9月10日  箱根登山バスの端末運用開始日：9月1日  10月15日現在の利用実績 伊豆箱根バス161件（熱海・箱根線のみ）／箱根登山バス10,663件（全路線）</p>			

▼実際に設置した機器



## 5-②. 成果及び今後に向けて

## 補助事業②・③

## 箱根エリア内路線バスへのタッチ決済およびQR認証端末導入

## 令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名	現金精算率の低減
令和7年度に掲げた目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>【伊豆箱根バス】11.0% 【箱根登山バス】14.0%</li> </ul>
事業の成果/目標の検証結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>【伊豆箱根バス】15.2% 【箱根登山バス】14.4% (事業期間中)</li> </ul>

## 令和7年度に掲げた目標値

- 【伊豆箱根バス】11.0% 【箱根登山バス】14.0%

## 事業の成果/目標の検証結果

- 【伊豆箱根バス】15.2% 【箱根登山バス】14.4% (事業期間中)

## 成果の詳細

## &lt;伊豆箱根バス&gt;

タッチ決済サービスは、現金払いにおける両替の概念がないため、その分スムーズな降車が可能になり精算時間は減少する傾向にある。

利用者数 (9月10日～10月15日合計) 161名

## &lt;箱根登山バス&gt;

路線バス136両に40日程で取り付けが完了したことから9月1日からクレジットカードタッチ決済のサービスを開始することができた。

全車に車内にポスターを掲出し、旅客への周知を実施し、さらに箱根登山バスおよび小田急電鉄(株)、(株)東海バス、小田急ハイウェイバス(株)の4社HPで共同で情報発信を行った

10月12日(日) 10時50分小田原駅着の降車数をカウントしたところ、37名の利用者の内訳は  
周遊券(箱根フリーパス) 10名、交通系ICカード15名、クレジットカード12名、現金0名であった。  
⇒完全キャッシュレスが実現されており、現金精算の両替による降車精算時間ロスは発生しなかった。

## 令和7年度事業を踏まえた継続課題

## ① タッチ決済の利用率 (伊豆箱根バス)

- 運用開始間もないため、タッチ決済の利用率が低く明確な効果はまだ表れていない

## ② 利用方法の周知 (箱根登山バス)

- 交通系ICカードとクレジットカードタッチ決済では端末が別になるため、最初に利用する際に戸惑う旅客が散見されるので、更なる周知が必要

## ③ QRデジタルチケットの調整

- QRデジタルチケットの読み取りに時間がかかるためQRコードのサイズ等の調整が必要

## 令和8年度以降の方針

## ① 認知度向上・情報発信

- バス車内放送でのクレジットカードタッチ決済の案内放送による認知度向上を図る
- 箱根町観光協会と連携し、クレジットカードタッチ決済サービスの情報発信を強化する

## ② 利用者データの活用

- 利用者データを活用した利用状況の分析を検討する

## ③ タッチ決済端末の導入拡大

- 箱根登山バスにおいては、小型の箱根湯本温泉旅館循環バスへのタッチ決済端末導入予定

## 5-③. 主な取組（詳細）

## 受入環境の整備・増強

補助事業④	閑散地域の魅力理解促進による周遊箇所分散のための観光関連事業者向け研修事業		
事業目的	箱根町内外のホテルコンシェルジュなどの直接旅行者と接する機会をもつ観光関連事業者に対して、閑散地域の魅力理解のための研修をバスツアー形式で実施し、提案力を向上させることで、旅行者の周遊行動の変化を図る。		
実施主体	箱根DMO	実施期間	令和7年11月～令和8年2月
<p><b>【背景・課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大涌谷や箱根神社といった人気スポットに観光客が過集中しており、周遊性の低下を招いている。</li> <li>観光事業者（主に接遇部門）では、シフト制勤務などの影響により、箱根の観光知識を身に付けるためのインプットの時間がとりづらい現状があった。</li> </ul> <p><b>【事業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旧東海道杉並木や芦ノ湖展望公園等の穴場スポットを周遊する現地研修を、12月16日(火)/18日(木)の計2回開催した。</li> <li>研修効果をより高めるため、参加事業者へ向けた研修内容のフォローアップ資料、ならびにお客さまへのご案内に活用できる一般配布可能な資料を作成した。</li> </ul> <p><b>【推進ポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>箱根で訪日外国人旅行者を中心とする多数のガイド実績をもつ、(株)やまぼうし金子森氏に研修内容の設計から当日のガイドングまでを委託することで、訪日外国人旅行者の趣向に合わせたプログラムを実施した。</li> <li>研修に組み込むべき観光資源のリストアップや・選定の段階から、参加対象の事業者にも「どういったことを知りたいか」というヒアリングを実施したことで、より前向きな参加意識の醸成が可能となった。</li> <li>観光関連事業者のなかでも、箱根DMOが経済産業省の事業で行う人材不足解消のための「箱根地域の人事部」へ参画する事業者に重点的に告知することで、観光人材育成に前向きな事業者からの参加者を募る。</li> </ul> <p><b>【事業実施状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年10月/11月 研修内容の策定、関係各所との詳細調整や手配</li> <li>令和7年12月 全2回の研修ツアーの実施</li> <li>令和7年1月 フォローアップのための資料配布</li> </ul>			

## 5-③. 成果及び今後に向けて

## 補助事業④

## 閑散地域の魅力理解促進による周遊箇所分散のための観光関連事業者向け研修事業

## 令和7年度事業の目標（KPI）

## 指標名

研修への参加事業者数

## 令和7年度に掲げた目標値

- 目標値：15事業者（令和7年度内）

## 事業の成果/目標の検証結果

- 実績値：24事業者（事業完了時）

## 成果の詳細

## ▶目標値に対する結果

目標値を大幅に超える事業者にご参加いただくことができました。

また当初の想定よりも多様な業種（宿泊・飲食・土産物・美術館・交通インフラなど）の事業者が参加したことにより、事業者間の交流の場という機能も果たした。

## ▶事業目的に対する成果

後日参加者に実施したヒアリングでは、「人気スポットのすぐ横にも、人が少なくゆったり過ごせる穴場スポットがあることを知れて、ご案内の幅が広がった」といった意見や、

「1つの目的地でも、特に混雑する時間帯や公共交通の状況を把握しておくことで、より満足度の高いご提案ができると思う。」といった意見があがっており、本研修を実施が周遊分散に繋がる可能性を十分に確認できた。

## 令和7年度事業を踏まえた継続課題

## 1 研修内容の調整

- 1日の研修で多くのスポットを周遊するため、講師との質疑応答の時間や、参加者同士でのディスカッションの時間がとれず、インプットが多い研修となった

## 2 効果測定手法の再検討

- お客様への配布資料において設定したサブKPI（目標値:特定施設での回収10件）においては、回収数がわずか1件となった。実際に観光客の行動変容に繋がったかの効果を測定するには、より適切な効果測定手法の検討が必要である。

## 令和8年度以降の方針

## 1 研修内容・ターゲットの見直し

- 参加者から希望の多かった「多様な研修ツアーの実施」（アート・グルメ・ネイチャー）などの実施に向けて、参加費徴収を含む条件を整理する
- 若手や赴任直後の社員など、参加者のターゲットをより具体的に設定した上での募集を行う
- 現地での体験やハイキングだけではなく、研修内容について参加者同士でディスカッションするといったフォローアップを実施

# 5-④. 主な取組（詳細）

需要の分散・平準化

補助事業⑫	SNSを活用した観光スポット分散プロモーション事業		
事業目的	「Hidden gems（隠れた名所や名店）」をSNS上でキャンペーン化することで、箱根エリアの観光スポットの分散および回遊性・滞在体験の向上を図る		
実施主体	箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会）	実施期間	令和7年8月～令和8年2月

【背景・課題】

- ・ 人気スポットや飲食店に旅客が集中することで待ち時間が発生し、その結果消費行動に制約が生じ、満足度の低下につながっている
- ・ 一方で箱根にはまだ知られておらず、キャパシティに余裕があるスポットや飲食店が多数存在している

【事業内容】

- ・ 箱根エリアの未認知資源の発見を目的としてInstagramでキャンペーンを実施する
- ・ 「Hidden gems（隠れた名所）」ハッシュタグをつけてユーザーに投稿された中から優秀な作品を選出し、箱根の宿泊施設や日帰り温泉施設の招待券をプレゼントする
- ・ 投稿をベースとして、位置情報＋興味関心ターゲティングによって「箱根に行きそうな人」へ効率的に広告配信を実施する

【推進ポイント】

- ・ 配信結果を加味しながら広告配信セグメントの最適化を行う
- ・ 「企業がやっているキャンペーン」ではなく、ユーザーが自分の思い出を語り、自分だけの発見を共有できる場として設計する。こうした心理的欲求にアプローチすることで、キャンペーン終了後も継続的に使用されるムーブメントとなることを目指す
- ・ 加えて、キャンペーン途中で中間結果発表や投稿の集積をもとに「#hiddengemshakoneマップ」を作成し「箱根観光デジタルマップ」におすすめルートとして掲載することで、ユーザーの参加モチベーションを強化し、UGC（User Generated Content = ユーザー生成コンテンツ の略）の持続性・波及力を高める

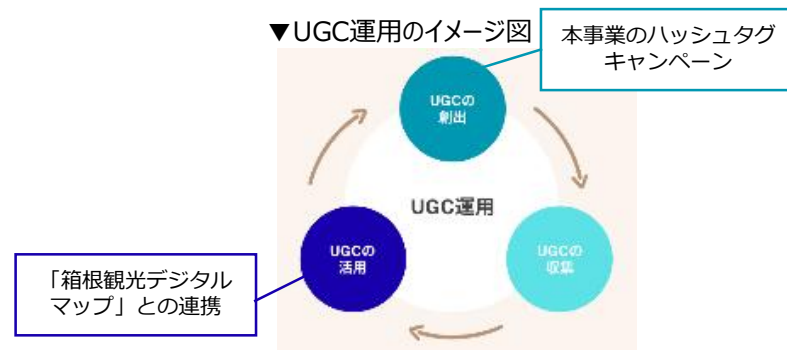
【事業実施状況】

キャンペーン開始 8月8日  
 現在の実績 12月25日までの投稿数191件

▼令和7年8月8日より開始したキャンペーン投稿



▼UGC運用のイメージ図



## 5-④. 成果及び今後に向けて

## 補助事業⑫

## SNSを活用した観光スポット分散プロモーション事業

## 令和7年度事業の目標（KPI）

指標名 「#hiddengemshakone」の投稿数

## 令和7年度に掲げた目標値

- 1,000件

## 事業の成果/目標の検証結果

- 191件（令和7年12月時点の合計投稿数）

## 成果の詳細

- キャンペーン参加者数およびハッシュタグ投稿件数はKPIの約20%にとどまった
- 副次的な効果として、期間中フォロワーが約1,500名増加した
- 広告運用の結果は以下の通り
  - インプレッション数: 67,175 回
  - リーチ数: 29,490 人
  - プロフィール訪問数（結果）: 3,169 件
  - 訪問単価（単価）: 25 円
- キャンペーン参加者数およびハッシュタグ投稿件数は、KPIの約20%にとどまり、観光客分散の即時的・定量的な効果を示すまでには至らなかった
- 一方で、「Hiddengems（隠れた名所・名店）」をテーマとした投稿が一定数創出され、主要観光スポット以外の魅力を可視化する基盤を形成することができた
- 短期的な行動変容の創出には課題が残るものの、中長期的な観光分散に向けた認知拡大および導線づくりという点では一定の成果があったと評価できる

## 令和7年度事業を踏まえた継続課題

## キャンペーン参加者数・投稿件数

- キャンペーン参加者数およびハッシュタグ投稿件数がKPIの約20%にとどまり、量的な広がり十分ではなかった
- ハッシュタグの土台はすでに形成されているため、これを活用したコンテンツ発信を継続することで、自走し、自然増していくハッシュタグへと成長させていくことが必要である

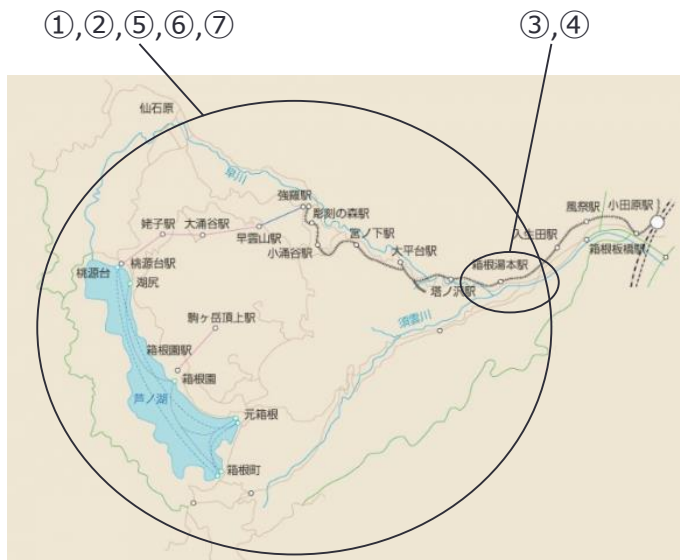
## 令和8年度以降の方針

## ハッシュタグの継続活用に向けた取組

- ハッシュタグの継続活用に向けた仕組みづくりを検討する
- 英語タグ（#hiddengemshakone）の訪日外国人旅行者強化に向けて、現地POP設置や公式アカウントで“Hidden Gem of the Month”としてリポストすることや、海外インフルエンサーとの連携を検討する

## 4. 対策の概要

- 国内外からの来訪者増加により、特定の期間・時間に道路、交通機関、観光スポット、飲食店などで混雑が発生し、観光客の不満要素の不動の第1位となっており、満足度向上が課題
- 上記を踏まえ、既存会議体である箱根町観光交通総合対策協議会にて対策を検討
- 交通渋滞に関しては、公共交通機関の利用促進や駐車場の分散化などを図る。交通機関においては、主に事業者側の受入環境整備（①～④）を実施
- 時期・場所の集中に関しては、観光客の分散・平準化を図る取組み（⑤～⑪）やロープウェイの事前予約システム導入（⑫）など、複数の取組みを実施する



### 受入環境の整備・増強

#### 取組み

#### 背景

#### 内容

#### 取組み

#### 背景

#### 内容

#### 取組み

#### 背景

#### 内容

#### 取組み

#### 背景

#### 内容

#### ① キャリーケース配送簡易伝票システムの導入

- 大きなキャリーケースを持ったまま観光する外国人が多く、周遊性の低下、バス車内の乗車スペース圧迫や運行への影響、ひいては道路渋滞などの要因となっている

- 東京と京都間の観光地であるため、県外も含めた宿泊施設間の配送による手ぶら観光を実現し、車内混雑・渋滞の緩和、フロントスタッフの負担軽減を図る

#### ② 路線バス車内のラゲージスペースの整備

- キャリーケースを置かれてしまい座席を利用できない、通路をキャリーケースが塞ぎ乗降に時間がかかる、カーブや急勾配の多い道路を運行中にキャリーケースが動いてしまい車内事故につながるといった事象が発生

- バス車内にラゲージスペースを設置し、乗車効率の低下防止や車内事故の回避を図る

#### ③ タクシー乗り場における外国人旅行者向け情報案内ポーター配置

- 訪日客がタクシー乗り場で行先に迷い、配車効率が下がっている
- 案内ポーターを設置することで、タクシー乗り場付近での立ち止まりによる混雑を防ぐ

#### ④ タクシーへの携帯型翻訳機導入によるコミュニケーション円滑化

- 乗務員と訪日客とのコミュニケーションがうまくとれず、発車までに時間がかかる。また、混雑時の代替訪問先の提案等をも支障
- 携帯型翻訳機を導入、コミュニケーションの円滑化を図る

### 観光客の分散・平準化

#### 取組み

#### 背景

#### 内容

#### 取組み

#### 背景

#### 内容

#### ⑤, ⑥ 日本政府観光局(JNTO)、OTA等を活用した閑散期宿泊の情報発信

- 平日と土休日の繁閑差が大きく、繁忙期はスポットや公共交通機関の混雑、道路渋滞が発生する一方、閑散期はキャパシティに余裕がある

- 日本政府観光局(JNTO)やオンライン・トラベル・エージェンシー(OTA)と連携し、平日限定プラン等を作り、旅行前段階からの発信を図る

#### ⑦ 「箱根観光デジタルマップ」の活用促進プロモーション

- 旅客の行動パターンが単一的で、旅客が集中し混雑するスポットや道路がある
- 混雑のリアルタイム情報を取得できるデジタルマップ利用を促進、行動変容を促す

## 4. 対策の概要

- 国内外からの来訪者増加により、特定の期間・時間に道路、交通機関、観光スポット、飲食店などで混雑が発生し、観光客の不満要素の不動の第1位となっており、満足度向上が課題
- 上記を踏まえ、既存会議体である箱根町観光交通総合対策協議会にて対策を検討
- 交通渋滞に関しては、公共交通機関の利用促進や駐車場の分散化などを図る。交通機関においては、主に事業者側の受入環境整備（①～④）を実施
- 時期・場所の集中に関しては、観光客の分散・平準化を図る取組み（⑤～⑪）やロープウェイの事前予約システム導入（⑫）など、複数の取組みを実施する



### 観光客の分散・平準化

- |            |   |
|------------|---|
| <b>取組み</b> | ⑧, ⑨大涌谷渋滞情報看板の更新、大涌谷三叉路誘導員配置実施  |
| <b>背景</b>  | ・マイカー客が一本道に入ってしまう、身動きがとれなくなることで、渋滞を生じている  |
| <b>内容</b>  | ・渋滞情報や空き駐車場等への案内を行うことで、渋滞緩和を図る  |
| <b>取組み</b> | ⑩「はこねカーシェア」利用促進プロモーション及び移動情報分析  |
| <b>背景</b>  | ・車で訪れる人が多く、昼前後には箱根湯本商店街周辺を起点に下り線が渋滞し、夕方上り線が渋滞する   |
| <b>内容</b>  | ・域内へは公共交通機関、域内移動はカーシェアを利用するモーダルシフトの利用を促進することで域内流入車両を減らし、渋滞の緩和を図る<br>・「はこねカーシェア」利用者のGPSデータを収集し、利用者の行動パターンを分析することでステーションの拡大や次の渋滞対策の打ち手を検討する |
| <b>取組み</b> | ⑪箱根神社周辺渋滞解消のためのパーク&シッフの推進   |
| <b>背景</b>  | ・マイカー来訪者向けの情報が不足しており、年末年始には参拝客の駐車場待ち渋滞が顕著になる  |
| <b>内容</b>  | ・渋滞情報の看板設置や空き駐車場等への案内を行うことで、渋滞緩和を図る   |

### 需要の適切な管理

- |            |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| <b>取組み</b> | ⑫箱根登山鉄道（ロープウェイ）における事前予約システムの構築       |
| <b>背景</b>  | ・箱根ロープウェイおよび箱根登山ケーブルカーの結節駅にて待ち時間が発生  |
| <b>内容</b>  | ・混雑の緩和のため、事前予約システムを導入、かつ予約可能件数に上限を設定 |

### マナー啓発

- |            |   |
|------------|---|
| <b>取組み</b> | ⑬, ⑭パンフレット及びWEBによるバスの乗り方や箱根の周遊方法の周知                                 |
| <b>背景</b>  | ・訪日客がバスの乗り方や箱根の周遊の仕方を理解できておらず、滞留することで混雑が発生したり、文化の違いにより地域住民の不満が募っている |
| <b>内容</b>  | ・訪日客向けにバスの乗り方や周遊方法、マナー啓発を行う   |

### 地域住民と協業した観光振興

- |            |   |
|------------|---|
| <b>取組み</b> | ⑮地域の小学生と協働したEVタクシーラッピング施工   |
| <b>背景</b>  | ・地域の子供たちに基幹産業である観光を理解してもらおう取組みが不十分であるため、就職を期に町外へ住まいを移すことで人口減少が顕著になっている  |
| <b>内容</b>  | ・地域の子供たちが観光事業へ親しみを持つ機会を創出する<br>・子供たちの絵でラッピングしたEVタクシーの走行により、マナー啓発の効果を高める |

## 5. 主な取組み（詳細）

## 課題

- 主に訪日客が大きなキャリーケースを持ったまま移動することで周遊性が低下しているほか、公共交通機関や歩道で他者の快適な観光を妨げている

## 取組み

## キャリーケース配送サービス体制整備

（宿泊施設→次の宿泊施設/空港など）

- 実施期間：令和6年11月～令和7年1月
- 実施主体：箱根DMO

## 事業内容

## ■ キャリーケース配送サービス体制整備

- 宿泊施設から次の宿泊施設（箱根外も含む）や空港などへのキャリーケースを配送する際のデジタル伝票システムを整備する

## 【背景・目的】

- 箱根町では主に訪日客が移動時に大きなキャリーケースを持っていることで、①周遊性の低下②公共交通機関の乗車スペースが圧迫され乗車効率が悪化③路線バスでは乗降に時間を要し、定時運行への影響や停車時間の長期化により交通渋滞などが起きている
- この状況に対し、箱根登山バス(株)が実施している駅⇄宿間の配送サービスに加え、箱根町内の宿から宿への当日配送サービスを実施してきた。過年度事業では、1つの宿泊施設だけでなく複数の宿泊施設へ宿泊する旅行者や次の目的地へ行く旅行者がサービス対象外となり効果が限定的となった
- 本事業の追加により、母国語での伝票入力をシステムで完結することによって配送サービスの利用を促進し、旅行者の快適な観光を支援するとともに公共交通機関や歩道で発生する問題の緩和を図る

## 現状



- バスや登山電車、ロープウェイ等にキャリーケースを持ったまま乗車し、周遊している

## 事業イメージ



- 箱根エリアの参画施設において、訪日外国人旅行者が簡単に利用できるデジタル送り状発行システム（スマート Cat日本語英語対応）の導入
- フロントの従業員の工数も削減
- 手ぶらでの観光により、本人及び周囲の人がストレスを軽減させ周遊させる

## 令和6年度事業の目標

### A：手ぶら観光の推進

### B：従業員業務負担の低減

## 事業の成果／目標の検証結果

### A：都市間利用を含む手ぶら観光サービスの利用が一定程度進んだ

- ▶ 参画施設：**23施設**
- ▶ サービス利用者：**206名**、うち**8割が訪日客**
- ▶ サービス利用数：**260個**（令和5年度11月～令和6年1月）  
→ **456個**（令和6年11月～令和7年1月）

### B：従業員業務負担を低減

- ▶ 従業員アンケートで業務負担低減したという回答：**33.3%**

## 成果詳細

### <手ぶら観光の推進>

- 令和6年11月8日～令和7年1月31日の間に、**利用者206名、発送荷物456個の利用あり**。利用者のうち**訪日外国人旅行者の比率は80%**
- **箱根→京都が42%、箱根→東京が32%**を占め、町内だけではなく次の目的地までの新幹線等におけるキャリーケース持ち運び削減にも寄与している
- **訪日客の次の目的地を宿泊施設等が把握できる**など副次的な効果がある

### <従業員の業務負担の低減>

- 宿泊施設の従業員向けアンケートで、**業務負担が低減した**との回答は**33.3%**に留まった
- 要因としては、大部分はシステム化されたものの、依然として**施設側で帳票を手書きしなければならない部分が残っている**ことが挙げられる

## 令和6年度の実践から見てきた課題

- 配送サービスにおけるサービス体制の構築により取扱い件数が増加するなど一定の成果が出ているが、訪問者数比ではまだ低い割合に留まっており、さらなる促進が必要
- 従業員の業務負担軽減

## 令和7年度以降に取り組むべきと考えること

### 【訪日客向け】

- 本サービスに関する訪日客の認知度は上がってきているため、取組みを計測し、オペレーションの中で浮上する課題を解決していく
- 日本政府観光局(JNTO)やJR等との連携により、本サービスについての広報をより充実させることを構想中

### 【箱根町内向け】

- 地域内の施設における本システムの導入促進に取り組む

## 5. 主な取組み（詳細）

### 課題

- 通路をキャリーケースがふさいでしまい乗降に時間を要する
- 座席に荷物が置かれ、着座できない
- キャリーケースが動いてしまい車内事故につながる

### 取組み

#### 路線バスのラゲージスペースの整備

- 実施期間：令和6年8月～令和7年2月
- 実施主体：箱根登山バス株式会社

### 事業内容

#### ■ 路線バスのラゲージスペースの整備

- ラゲージスペースをバスに整備

#### 【目的】

- ①運転士がキャリーケースに対応する時間の削減による定時運行率の向上②乗車率の向上③車内事故の未然防止を図る

整備前



ラゲージスペース整備後



## 令和6年度事業の目標

A：バスの定時運行率の向上

## 事業の成果／目標の検証結果

A:運行所要時間の短縮が一定程度確認された

- ▶ 訪日外国人旅行者の乗降が多い「大芝」から「元箱根港」バス停通過時間：**2分弱の短縮（7分21秒→5分38秒）**

## 成果詳細

- バス車内にキャリーケースなどを置く荷物スペース整備することで乗車率の向上と車内事故の未然防止に寄与
- 運転士がキャリーケースに対応する時間の削減による定時運行率の向上
- 「大芝」から「元箱根港」バス停通過時間 荷物置き場なしの車両と比較して、2分近い短縮に寄与した

### 訪日外国人旅行者の乗降が多い「大芝」から「元箱根港」バス停の通過時間

#### ● 荷物置き場なし

大芝ー箱根神社入口	3 : 0 0
箱根神社入口ー元箱根港	4 : 2 1
合計	7 : 2 1

#### ● 荷物置き場あり

大芝ー箱根神社入口	2 : 5 0
箱根神社入口ー元箱根港	2 : 4 8
合計	5 : 3 8

## 令和6年度 of 取組みから見えてきた課題

- ラグージ置き場整備の効果が一定程度確認できたため、同路線や同様に訪日外国人旅行者の利用が多い路線での導入を進めることが必要。

## 令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 箱根登山バス及び他のバス会社（伊豆箱根バス）に今回の成果を基に投資検討を協議

# 5. 主な取組み（詳細）

## 課題

- 箱根ロープウェイ駅で長時間の待ち時間が発生

## 取組み

### 箱根登山鉄道（ロープウェイ）における事前予約システムの改修

- 実施期間：令和6年11月
- 実施主体：株式会社小田急箱根

## 事業内容

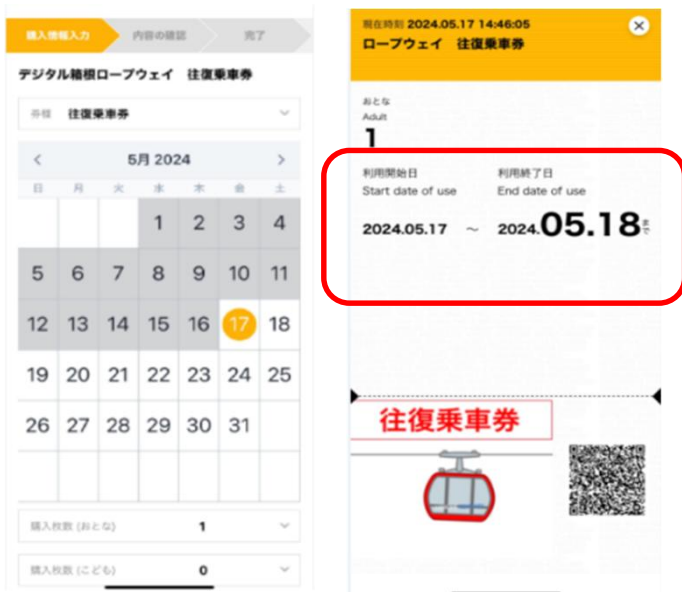
### ■ 箱根登山鉄道（ロープウェイ）における事前予約システムの改修

- 事前予約システムの導入（時間指定の仕様を追加）
- 時間単位での予約可能件数の上限設定

#### 【背景・目的】

- 繁忙期には箱根ロープウェイ駅にて長時間の待ち時間が発生、待ち列に並んでいる旅客は満足度が低下するほか、経済消費につながっていない
- 事前予約制を導入し、予約可能件数の上限を設けることにより、分散化を図る。また、乗車までの待ち時間を周辺観光等に活用してもらうことで、域内消費活動を促進させる

#### 従前：利用日のみ指定し予約可能



#### 事前予約システム導入後：利用日及び時間（15分枠）を指定し予約可能

時間選択

日付 2024/11/09 予約可能時間 10:00~15:00

※予約可能時間は早雲山駅からの乗車のみです。  
当日は、混雑が予想されますのでご予約いただく際には時間に余裕をもってお願いいたします。  
※ご乗車には、別途乗車券が必要です。

予約枠	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
00~15分	-	-	○ 110	○ 120	○ 118	○ 113	○ 110	-	-	-
15~30分	-	-	○ 116	○ 113	○ 120	○ 120	○ 117	-	-	-
30~45分	-	-	○ 117	○ 117	○ 120	○ 120	○ 118	-	-	-
45~60分	-	-	○ 120	○ 117	○ 120	○ 109	○ 118	-	-	-

○...予約空きあり △...予約空きわずか ×...予約空きなし

戻る 予約開始

※予約システムは多言語（日・英・仏・韓・簡体字・繁体字）対応

## 令和6年度事業の目標

- ・ ロープウェイ待ち時間の短縮

## 事業の成果／目標の検証結果

- ・ ロープウェイ待ち時間の10分短縮
  - ▶ 繁忙期の同曜日平均待ち時間（13時－14時）：  
**40分（令和5年11月） → 30分（令和6年11月）**

## 成果詳細

- ・ 利用旅客がピーク時を避け、オフピーク時間帯に分散化されたことにより、**最大待ち時間が25%低減され、最大30分程**になった。
- ・ また、乗車待機列が短縮されたことにより待合スペースでの過密状態が緩和され、旅客のストレスや不満が減少された。
- ・ 予約時間までの空いた時間で、箱根ケーブルカーや箱根ロープウェイでの消費行動が促進された。

【参考：2024年11月実施データ】

早雲山駅 予約率12% 乗車率\*32%

桃源台駅 予約率8% 乗車率\*39%

\*乗車率は事前予約をした方のうち、実際に予約した時間に乗車した方の割合

## 令和6年度の取組みから見えてきた課題

- ・ 事前予約システムの導入により、繁忙期の乗車待ち時間が短縮するなど一定の効果が確認できた一方で、予約率や予約者の乗車率は低い割合に留まった。
- ・ 事前予約の乗客とそれ以外の乗客が乗り場で混在するなど、オペレーション面での課題も明らかになったため、少ない現業係員のみでスムーズな対応ができるよう対応が必要。

## 令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ **予約率の向上**
  - ▶ 事前予約の周知（箱根ナビ掲出方法、其他媒体での発信）
- ・ 予約した乗客への円滑な対応
  - ▶ 優先改札ゲート設置の検討、フットサインの導入など
- ・ **団体旅客対応の検討**
  - ▶ 大涌谷駅での事前予約または整理券、実証実験実施

# 5. 主な取り組み（詳細）

## 課題

- 大涌谷周辺の道路渋滞

## 取り組み

### 大涌谷三叉路案内員配置/大涌谷渋滞情報看板の更新

- 実施期間：令和6年11月16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）
- 実施主体：箱根DMO

## 事業内容

### 大涌谷三叉路案内員配置

- 11月の繁忙期（16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日））をターゲットに、大涌谷三叉路周辺に案内員を配置。案内員は、車両のナンバー等を把握しつつ周辺駐車場のスタッフと連携し、どれだけ行動変容が起こったかの検証ができるよう情報収集も行う
  - 大涌谷三叉路案内スタッフ：
    - 大涌谷園地までの所要時間案内（渋滞情報案内）
    - 周辺駐車場（ロープウェイアクセス含む）案内
    - 案内車両のナンバー（どこから来たか）チェック
  - 各駅駐車場案内スタッフ：
    - 大涌谷三叉路案内時に配布したリーフレットの回収

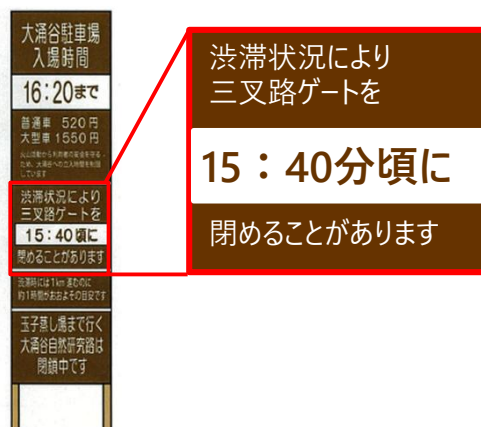
### 実績：大涌谷三叉路誘導員配置



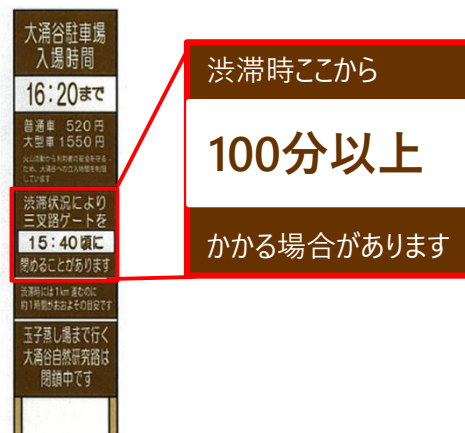
### 大涌谷渋滞情報看板の更新

- 下記のとおり、渋滞情報の看板を更新

#### Before：ゲートの閉鎖時間を周知



#### After（実績）：駐車場への所要時間を注意喚起



#### 看板設置位置図（全体図） ●設置場所：9ヶ所



## 2023年実績

**A : 大涌谷駐車場待ち時間短縮**

**B : バスの運行所要時間減**

## 事業の成果／目標の検証結果

**A : 大涌谷駐車場待ち時間短縮に寄与**

- ▶ 11月16日(土) : 65分 \*11:30~12:30 前年比▲55分
- ▶ 11月17日(日) : 70分 \*11:30~12:30 同 ▲30分
- ▶ 11月23日(土) : 60分 \*10:30~11:30 同 ▲20分
- ▶ 11月24日(日) : 70分 \*10:30~11:30 同 ▲10分

**B : バスの運行所要時間の短縮 4分15秒短縮**

- ▶ 伊豆箱根バス「上湯」-「固有林前」所要時間 : **6:49 →2:34**

## 成果詳細

- 伊豆箱根バス「上湯」から「固有林前」のバス通過時間についても4分と大幅に減少した（通常時の通過時間は1分）。
- 大涌谷駐車場待ち時間も前年度と比較して減少傾向にある
- パンフレットの配布枚数は前年比減少したものの、パンフレットの回収数は増加した。この結果は大涌谷三叉路周辺を通行した観光客の行動変容を促すことができたことを示すものであり、本事業が大涌谷三叉路の渋滞緩和に一定数寄与したといえる。

### ●配布リーフレット



### ●リーフレット配布・回収実績

日付	天候	配布数		回収数			回収率	
				本年		前年		
				場所毎	合計			
11月16日	曇 晴 (強風)	103	341	姥子 : 14 湖尻 : 0	14	0	13.6%	0.0%
11月17日	霧/晴 晴	173	451	姥子 : 36 湖尻 : 20	56	45	32.4%	10.0%
11月23日	雲 晴	270	391	姥子 : 87 湖尻 : 1	88	51	32.6%	13.0%
11月24日	晴 曇	418	169	姥子 : 108 湖尻 : 12	120	48	28.7%	28.4%

## 令和6年度の取組みから見えてきた課題

- 前年に比べ、大涌谷駐車場の待ち時間は短縮傾向を示している。
  - しかしながら、この効果は駐車料金の変更や観光客数の減少といった複数の要因が複合的に作用した結果と考えられるため、今後の変化を継続的にモニタリングしていくことが必要である
- ※月間箱根町入込観光客数（11月）箱根DMO 観光診断書データより  
2023年 : 1,534,270 / 2024年 : 1,364,226 (▲11.1%)

## 令和7年度以降に取り組むべきと考えること

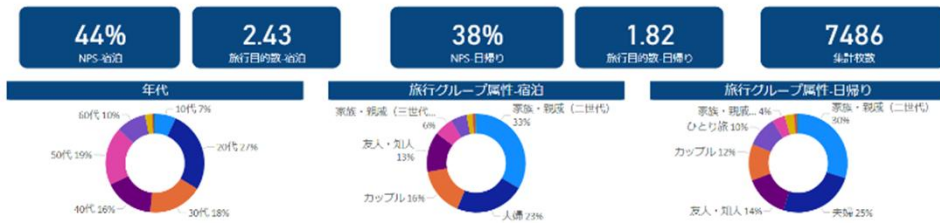
- 継続的にモニタリング

# 箱根DMOの取組み（推進体制）

- 箱根町では、即時アンケートの結果を基に事業を検討、実施しており、今回のオーバーツーリズム対策事業も同様である
- 同時多発的に事業を実施するために、箱根町内でプロジェクトチームを作り、日々進捗管理を行っている

## 2018年度より実施している即時アンケート（抜粋）

### 箱根DMO観光診断書 国内版



都道府県別満足度・旅行目的数の平均	箱根DMO	箱根DMO	箱根DMO	箱根DMO	箱根DMO	箱根DMO	箱根DMO
神奈川県	48.7%	21,767	4,447	1,833	7,776	3,741	246
東京都	48.0%	23,539	12,240	2,739	11,381	4,602	228
埼玉県	47.7%	22,504	6,192	3,545	12,178	6,125	240
千葉県	45.3%	22,702	8,756	3,114	10,850	5,172	242
静岡県	3.81%	21,117	6,858	12,684	12,684	3,015	242
愛知県	3.51%	25,207	3,092	3,682	3,682	2,443	243
大阪府	2.88%	20,425	3,778	5,269	5,269	3,540	241
茨城県	1.42%	20,462	6,308	3,540	3,540	3,540	240
埼玉県	0.91%	20,666	5,636	4,802	4,802	3,540	237
東京都	0.69%	19,341	8,213	4,969	4,969	3,540	236
千葉県	0.65%	19,776	6,790	3,687	3,687	3,540	216
北海道	0.65%	26,042	7,167	6,966	6,966	3,540	216
栃木県	0.57%	20,454	5,596	3,056	3,056	3,056	212

**改善を求める点**

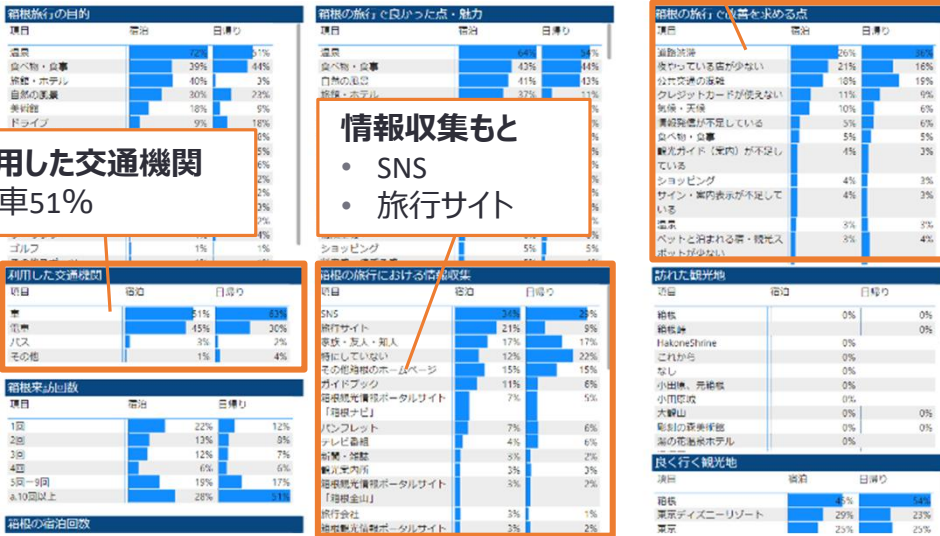
- 道路渋滞
- 公共交通の混雑

**利用した交通機関**

- 車51%

**情報収集もと**

- SNS
- 旅行サイト



## 箱根町の推進体制

- 箱根DMOが事務局となり、官民一体となって7つのプロジェクトに取り組んでおり、プロジェクト毎に週1～月1の頻度で定例会、全体で月1回の戦略推進委員会により進捗などを共有している

プロジェクト	内容
混雑対策（交通インフラ）	観光DXでの取組にも立脚し、データによる効果検証を含めた需要の分散・平準化対策を、箱根エリア全体を対象に実施する
人材不足	コロナ禍を経て人材の質・量両面での不足が深刻化している中、短期的・長期的両軸で箱根エリアの人材を活性化させる
ユニバーサルツーリズム	高齢者や子連れ、障がいを持つ方など、誰でも気兼ねなく安心して過ごせる観光地を目指す
サステナブルツーリズム	持続可能な観光地「箱根」の実現にむけ、パートナー企業と連携し自然環境の保全と観光資源を活用した取り組みを推進する
観光DX	店舗運営のDX化で効率的なリソース活用を支援するとともに、ICT技術を活用し旅行者の周遊利便性向上を目指す
防災対策	地域一体となって自然災害時や感染症発生時等の対応を行い、観光客・地域住民・従業員の安全を確保する
ゼロエミッション	パートナー企業と連携し、箱根町内の食品残渣を飼料化／バイオガス化する資源循環システムや食品リサイクル・ループを構築

### 現状について

- 令和7年度は、地域一体型として事業を実施。